

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団倭会		
事業所名	グループホームねねむ(Bユニット)		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	平成22年7月2日	評価結果市町村受理日	平成22年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173700311&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年7月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目にするスタッフルームや事務所、玄関に理念、方針を掲示している。採用時にも説明している。定期的に行うカンファレンスで理念の実践を具体化して、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、畑作業の際に、近所の方と挨拶を交わしている。近所の方で、利用者の様子を気に掛けて実際に声を掛けてくださり、一緒にベンチで会話して下さったり、ホームに来訪される方もいらっしゃる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者の状況を報告したり、自治会回覧板で日頃の様子をお伝えし、認知症の方の理解につながるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や、外部評価結果等を報告している。また、避難訓練や行事に参加していただいている。会議でいただいた意見を運営に反映させる事が出来るよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき現状を把握していただいたり、その都度相談して市との協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に行っている。ヒヤハット等報告書をもとに会議を行い、議事録は全職員が確認できるようにしている。またカンファレンス等で話し合い、ケアに生かしている。介護や入浴の際に、体に変色がないかなどの観察を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをスタッフルームに設置しいつでも確認できるようにしている。カンファレンス等で虐待や拘束に結びつく事柄等話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する方が今まではなく、詳しい事は理解出来ていないように思う。今後必要となる可能性もあるため、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書等を提示し説明を行い、十分に納得して頂く様に行っている。法の改定時にも改めて文書にて承認を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族との会話から、意見等が聞かれた時には傾聴し、ミーティング等で解決策を話し合い情報を共有している。また、意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者や介護主任が主体となり意見や提案を聞いている。カンファレンス等で話し合う機会を設け、現状に応じ管理者や代表者へ報告・相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度自己目標を設定・評価し、向上を図れるようフォローしている。資格取得に必要な講習会に参加できるようシフト調整している。職員希望の図書を購入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やグループホームの研修会、認知症に関する講演会等近隣で行われる研修会への参加の呼びかけを行って研修の機会を確保している。また、介護福祉士、介護支援専門員等の資格習得をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣GH連絡会やケアマネ連絡会に参加し、他法人の職員と交流を図ったり、ネットワーク作りを行っている。同法人GHとも合同で事例発表会を行い、サービスの質の向上を図ると共に交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前に利用者との面会を行い、本人だけでなくできればご家族にも同席して頂き、困っている事等確認するようにしている。面談を行う事で、入居時より支援がスムーズに出来る様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	対応が出来る事、出来ない事は明確に伝えご家族の不満にならないよう配慮している。相談を頂いたとき時間を掛けてお話を聞いている。また、グループホームを理解して頂くために見学に来て頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	空きが出ない事、待機者もいるため相談からすぐに入居としない事の方が多い。在宅で困って入居させたいというご家族もおり、現状で使えるサービスの紹介や同法人の病院に相談する事を伝える。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を尊重し見守り、一緒に馴染みある活動を行うようにし、互いに支えあう関係が築け、利用者への感謝やねぎらいの気持ちを伝え、一緒に寄り添って生活しているという関係が築けていると思う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、近況報告を行うと共に、ご家族の思いをお聞きするようにしている。行事と一緒に参加して頂いたり、電話にて対応して頂くこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく知人や友人が訪ねてくることもある。また、利用者にとって大切にしたい事柄は、職員もその気持ちを共有して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等把握し、利用者同士の関わりを見守っている。孤立しないよう職員が間に入って会話する事もある。仲の良い利用者同士で外出出来るよう支援し、関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方でも、入院先へお見舞いに行くなどしてすぐに関係を断ち切ることはしていない。亡くなった場合も葬儀に参列するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を第一に考えて、希望や意向を把握し、一緒に生活する中で希望や意向を感じ取れるように意識して関わっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族、サービス担当者より情報収集し、入居後も会話の中から聞き出す等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしの様子から把握するようにし、1日の過ごし方は介護記録やアセスメントしてまとめ、職員は情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活で利用者のケアに必要なと思われる事や、職員が感じ取った事、家族の意向をカンファレンス等で話し合い、担当者が計画作成担当者と介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は誰が見てもわかりやすい記録を心掛け、作成し、情報を共有している。また、モニタリングを行い、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法事で外出する際等送迎を行っている。家族の宿泊にも対応している。受診の状況で職員の勤務時間を調整する事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、自治会婦人部の方に慰問に来ていただいたり、避難訓練に参加してもらうなど地域と協働した生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度かかりつけ医に訪問診療に来て頂き、電話での相談などにも応じて下さる。本人やご家族が以前からかかっていた病院を希望する場合は優先し、受診の付添を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の訪問看護師による健康管理、医師への相談を行っていただいている。24時間の連絡体制や緊急時の対応を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供を行う他、病院と連絡を取り合って対応を確認し早期の退院が実現するよう努力している。お見舞いに行き様子を確認することがある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び看取り介護に関する指針を説明している。出来る事、出来ない事を伝え本人やご家族、かかりつけ医等と相談し、利用者にとって良い終末期を考え支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から職員を派遣してもらい救命講習を受講した。緊急時マニュアルを配布し、判断に迷う事柄はケア向上委員会での検討も含め対応を検討している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定訓練を定期的に行い、自治会にも参加していただいている。自治会とはさらなる協力体制を築いていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に十分配慮し、一人ひとりの気持ちを考えた声掛けや支援を心掛け、排泄の声掛けは特に配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく表出が出来ず他利用者とのコミュニケーションが図れないときは、本人が言おうとしている事を推測、理解して他利用者との会話の架け橋となるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事をあまりもうけず利用者優先でペースを大切にしている。入浴や散歩等も希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく地域での美容室を利用しに出掛けたり、化粧を行って身だしなみに気をつけるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いて献立の参考にし、出来る事、出来ない事を見極め準備・片付けを一緒に行い、食事と一緒に摂取している。嚥下状態により刻み食で対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし把握している。常食では摂取が困難な方には、食事の形態を刻み食にしたり、とろみをつけたりして一人ひとりにあった形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや、就寝時の声掛け・介助を行い清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握、声掛けや誘導にて排泄を促し、利用者が気持ちよく排泄できるように支援を心掛けている。本人から訴える事が出来ない方に対しては、時間を見て声掛けし対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂いたり、純ココア・バナナ酢・ヨーグルト・牛乳・豆乳・オリゴ糖・ヤクルトなどを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る様に行うが、入りがたがらない方でも週に2・3回は入浴して頂ける様声掛けしている。時間帯に希望があれば対応している。また拒否が見られる時は無理強いはいしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リビングで休まれる方もおり、安心して休息を取れるようにし、眠れない時には、温かい飲み物を提供、話を傾聴し安心して休んで頂ける様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時に頂く説明書を保管し、その中に作用・副作用が記載されいつでも確認する事が出来る。薬変更時等連絡ノートや申し送り等で情報伝達を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き等自然と役割が決まり、自分の仕事と認識されている方がいる。全員女性の利用者なので家事には積極的に参加して下さる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ外出や喫茶店、買い物や散歩、畑、日光浴など職員と一緒に外での活動が行えるよう支援している。玄関先まで出られる利用者については見守りを行って必要に応じて付き添いを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室での個人管理でどこに保管したかわからなくなる事も多く、ホームで保管して買い物の際に、自身で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から申し出があった際に、ダイヤルが出来ない方は職員が介助したり、利用者の様子を見て電話をするのを促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者の写真、ご家族との写真を飾っている。金魚を飼って馴染みやすい雰囲気としている。食事のにおいが感じられ、リビングに出てこられる利用者もいる。不快なおいとならぬよう、換気や座布団の交換をこまめに行ったり消臭等の対策を講じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから中庭が見渡せ、廊下に籐椅子を設置し外や畑の様子を眺めたりすることが出来る。利用者は自身の気に入った空間で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力してもらい利用者が自宅で使っていた家具を持ち込んだり、ご家族との写真を飾るなどして、馴染みの物に囲まれ過ごしやすい居室空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等各所に手すり、車椅子用トイレを設置し、高さの変えた洗面台の設置を行っている。廊下は車椅子でもすれ違えるスペースを確保している。		